

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成29年7月18日(火) 第4校時

児童数 26名

場 所 4年生 教室

指導者 徳本 義和

- 1 単元名 本のショーウィンドウで、おすすめの本をしょうかいしよう
(教材名) 「本は友達」(新編 新しい国語四上 東京書籍)

2 単元の目標

- 紹介したい本について本のショーウィンドウで説明するために、本を繰り返し読むなどして改めて味わったり、新たなおもしろさに気付いたりしながら読んでいる。(国語への関心・意欲・態度)
- 身の回りの人に教えてもらった本や、自分が読んで紹介したいと思う本について、選んだ理由を明らかにしながら読むことができる。(読むことカ)
- 指示語や接続語は、文相互の関係、段落相互の関係を端的に示す手掛かりになることを理解し、文章を読むことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(ク))

3 言語活動とその特徴

本単元では、「本のショーウィンドウで、おすすめの本を紹介する」という言語活動を位置付けた。

「本のショーウィンドウ」とは、紹介したい本の内容をまとめたワークシートを、画用紙に貼って展示できるようにした物である(右図参照)。ショーウィンドウの各部分の構成は、①本のあらすじ、②好きな場面とその理由、③好きな一文とその理由、④読書記録、⑤取材記録、⑥友達の感想コーナーとなっている。

従って、児童がおすすめしたい本を自ら選んで、本のショーウィンドウを作成して友達に紹介することは、本単元でねらう「目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。」(C 読むことカ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。



図 本のショーウィンドウ

4 単元について

○児童について

本単元に至るまでに、読むことの領域について、次のような学習を進めた。

4月教材「こわれた千の楽器」では、登場人物の気持ちを想像しながら、音読する学習を進め、5月教材「ヤドカリとイソギンチャク」では、説明的文章の構成に気を付けながら内容を理解する学習を行った。また、6月教材「走れ」では、登場人物の気持ちの移り変わりに気をつけ、気持ちが分かる表現に線を引きながら読むことができた。

しかし、(C 読むことエ)「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」、(C 読むことカ)「目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。」について重点的に指導する機会が少なかったので、この単元を通して取り組むこととした。

○単元について

第一次では、学習計画表を基に児童に学習の見通しをもたせるようにする。また、教員自身が既習教材で本のショーウィンドウのモデルを作成し、単元で取り組む言語活動の具体的なイメージを児童に伝えるようにする。また、おすすめしたい本を児童が主体的に選べるようにするために、単元の第1時と第2時の間を約1ヶ月置き、読書する時間が十分もてるように配慮する。

第二次では、既習教材「走れ」を使って本のショーウィンドウを作っていく。好きな場面や好きな一文については、選んだ理由が明らかになるように、教科書本文に付箋を貼るなどして確認しながらワークシートに書き込んでいく。次にこの方法を活用し、おすすめの本でもショーウィンドウを作成する。

第三次では、できあがった本のショーウィンドウを使って、友達同士でおすすめの本を紹介し合う活動を行う。その際、簡単な感想を付箋に書いて友達と交換することで、児童の読書への更なる意欲を高められるようにする。

○指導について

【主体的な学び】

学習計画表を掲示したり教員モデルを提示したりすることで、児童に単元の見通しをもたせるようにしたい。また、学習のめあてに対するふり返りを毎時間シートに記述させることで、次時の学習への意欲を高められるようにしたい。さらに、読書期間を十分取ることで、どの児童もおすすめの本を確実に選ぶことができるように配慮する。

【対話的な学び】

ワークシートを作成する際、適宜ペア学習を取り入れながら、課題が解決できているか確認するように指示する。また、単元を通して本のショーウィンドウ作りに意欲的に取り組めるように、完成したショーウィンドウを友達と交流する活動を単元の最後に位置付けるよう工夫したい。

【深い学び】

選んだ本の好きな理由を書いたり、できあがった本のショーウィンドウを友達と交流したりすることを通して、児童自身の読みを深めることができると考えた。また、おすすめの本を取材することが、児童の読書の幅を広げることにつながり、この学習をきっかけとして、児童が夏休みに進んで本を手取るようになることを期待したい。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
紹介したい本について本のショーウィンドウで説明するために、本を繰り返し読むなどして改めて味わったり、新たなおもしろさに気付いたりしながら読もうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)	教えてもらった本や、自分が読んで紹介したいと思う本について、選んだ理由を明らかにしながら読んでいる。 (読むこと カ)	指示語や接続語は、文相互の関係、段落相互の関係を端的に示す手掛かりになることを理解し、文章を読んでいる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1) イ(ク))

6 単元の指導計画 (全5時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
一	1	・学習計画表を基に、学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画表を基に、学習のめあてとふり返りの観点を確認するように指示する。 ・教員が作成した「本のショーウィンドウ」のモデルを提示し、児童が言語活動の具体的なイメージをもてるようにする。 ・読書記録と取材記録の書き方を確認するように指示する。 	[関] 学習計画表や教員モデルを手がかりに学習の見通しをもち、紹介したい本を選んで読もうとしている。(発言の様子やふり返りカードの記述を基に評価する。)
二	2	・「走れ」を読んで、本のショーウィンドウを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな場面、あらすじ、好きな一文を見付けるために、教科書に付箋を貼りながら読むように指導する。 ・各部分のワークシートが記述できているか、ペアで確認しながら進めるように助言する。 	[読] 選んだ理由を明らかにしながら読み、「走れ」で本のショーウィンドウを作っている。(ワークシートの記述内容とふり返りカードを基に評価する。)
	3 4 (本時)	・おすすめの本で本のショーウィンドウを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな場面、あらすじ、好きな一文を見付けるために、紹介したい本に付箋を貼りながら読むように指導する。 ・各部分のワークシートが記述できているか、ペアで確認しながら進めるように助言する。 	[読] 自分が読んで紹介したいと思う本について、選んだ理由を明らかにしながら読み、本のショーウィンドウを作っている。 [言] 指示語や接続語は、文相互の関係、段落相互

			<ul style="list-style-type: none"> 記述内容が見付けにくい児童には、具体的なヒントを与えて支援する。 	<p>の関係を端的に示す手掛かりになることを理解し、文章を読んでいる。(ワークシートの記述内容とふり返しカードを基に評価する。)</p>
三	5	<ul style="list-style-type: none"> 本のショーウィンドウで、おすすめの本を友達に紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 観点を明確にして、意見や感想を交流するように助言する。 	<p>[関]おすすめの本について、本のショーウィンドウで友達に紹介することで、新たなおもしろさに気付いている。(発表の様子や交流した付箋、ふり返しカードの内容を基に評価する。)</p>

7 本時の指導 (4/5)

(1) 本時の目標 友達におすすめしたい本で、本のショーウィンドウを作ることができる。

(2) 本時の学習

時間	学習活動	指導上の留意点	多様なMIに働きかけるための手立て	評価規準〔〕・評価方法()○準備物
0	1 本時のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画表で本時の学習内容を確認させる。(視) 	<ul style="list-style-type: none"> 立って掲示物に体を向けるよう助言する。(身) これまでの学びを振り返るように声をかける。(内) 教員に続いて本時のめあてを全員で声に出して読む。(音)(言) 「お気に入りの本を紹介したい人を心に浮かべてみよう」と声をかけ、学習活動への意欲を高める。(人) 	○学習計画表
5	2 教員の提示するモデルを確認しながら、好きな一文や好きな場面を見付	<ul style="list-style-type: none"> 好きな一文や好きな場面を見付けるために、おすすめの本に付箋を貼りながら読 	<ul style="list-style-type: none"> 教員がやって見せる。(視) 活動がはじまったらいつでも前に出てきて、モデルに触れたり見たりして確かめ 	<p>○教員作成のモデル(全体に説明後は掲示)</p> <p>○紹介したい本</p>

15	<p>ける方法を知る。</p> <p>3 ワークシートにすきな一文やすきな場面とその理由を書く。</p>	<p>むように伝える。(博)</p> <p>・付箋を手がかりに、すきな一文やすきな場面とその理由を書くように指導する。(言・博)</p>	<p>て良いことを伝える。(身)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋には短い言葉でメモをすると後でふり返りやすいことを伝える。(言) ・手順で分からないことはないか確認する。 ・途中で困ったときは指導者に合図をしたり友達に尋ねたりするとよいこと、近くの席の友達が困っていたら声をかけることを伝える。(人) <p>・一文を小さな声に出して読み、リズムや響きを確かめて選ぶように助言する。(音)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿し絵を見ながら、まず、すきなページを選ぶように指示する。(視) ・「はしれ」のショーウィンドウを見て前学習をふり返りながら進めてもよいことを伝える。(内) ・掲示のモデルを確認しに行つてよいことを伝える。(身・視) ・理由を書くときに、既習の文型にあてはめて書くとよいことを伝える。(論) ・理由を考へるときに、今まで読んだ本を整理した記録(ショーウィンドウ裏面)を見て、参考にしたり比べたりしていいことを伝える。(博) ・感想用語を選ぶときに、「ことばの木」の掲示物を見ていいことを伝える。(視) ・指導者がまんべんなく机 	<p>○付箋</p> <p>○ワークシート</p> <p>○「ことばの木」の掲示物</p> <p>[読]自分が読んで紹介したいと思う本につ</p>
----	--	--	--	---

			間を移動し、声をかけるようにする。(身・人) ・できあがった児童は周りの友達の様子を見て、声をかけることができるようにする。(人)	いて、選んだ理由を明らかにしながら読み、本のショーウィンドウを作っている。
30	4 ペアで記述内容を確認する。	・各部分のワークシートが記述できているか、ペアで確認しながら進めるように助言する。(人)	・相手に分かりやすく、温かい言葉で支援することができるようにする。(人・言)	[言]指示語や接続語は、文相互の関係、段落相互の関係を端的に示す手掛かりになることを理解し、文章を読んでいる。(ワークシートの記述内容とふり返りカードを基に評価する。)
35	5 友達の意見を基に、本のショーウィンドウを完成させる。	・指導者は、机間指導をして、ワークシートが書けていない児童を支援する。(身・人)	・友達の意見を参考にしながら、完成させるようにする。(内・人・言) ・できあがっている児童は、読み返してよりよい表現になるようにしたり、友達を支援したりする。(内・人・言)	
40	6 本時の学習をふり返り、次時の学習内容を知る。	・ふり返りの観点を確認させる。(内・視)	・自分や友達のよいところを見付けることができるようにする。(内・人) ・学習計画表で本時の学習内容を確認するように指示する。(視)	○ふり返りカード